

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

KECA ニュース =No.53=

【巻頭言】

NPO 法人発足15周年を迎えて

理事長 木村信幸

概ね2016年度までの3年を目途とするKECA中期計画の初年度と位置づけた2014年度の活動も佳境に入り、関係各位のご努力で順調に推移しています。

ご承知のとおり今年度の事業計画では、最重要課題の一つとして「健全財政の維持」を掲げています。会員公募と（応募が少なかったため）運営委員会推薦による計6名のメンバーから成る「KECAの健全財政を目指す検討会」が8月末から始動し、真剣な議論を既に3回（月1回）重ねていただいています。予定される報告書（答申案）は理事会の審議を経て来年度総会に提案することになります。会員各位におかれても我が事として関心をお持ちいただき、ご協力をお願いいたします。

今年度の新しい試みとして、事業者向けの「環境経営セミナー」を開催しました。環境教育委員会が主導し、他の委員会が協力する言わばオールKECAの形で進められましたが、30名近い参加申込みがあったのは各位の集客努力もさることながら、掲げたテーマ、講演及び講義に惹きつけるものがあつたからにはほかありません（2ページ参照）。

また、このセミナーで紹介があり10月からスタートした無料サービスに、「KECA環境経営情報メールマガジン」があります。EA21情報、環境法規改正情報初め環境経営に関連する情報が満載です。溢れる情報の中から厳選された情報が定期的に配信されるのは、忙しい事業者、会員にはありがたいサービスではないでしょうか。末永いご愛顧をお願いいたします。

もう一つ新しいことと言えば、「平成26年度学校給食用牛乳びんの導入支援に向けたモデル事業」（環境省）に応募し選考されたことです。横浜支部の活動として今年度末までの短期決戦ですが、KECAとしては初めて国の助成金を得て行う事業であり特筆に値します（7ページ参照）。

さて、KECAは、この11月にNPO法人発足15周年を迎えます。昨年3月に任意団体設立15周年を迎えたのは記憶に新しいところです。今回特別な行事等を行う予定はありませんが、これからの10年、15年先に思いを巡らせつつ、今どういう手を打たなければならないのか、それぞれの立場で考えてみるのも一興ではないでしょうか。

先に松山で開催されたEA21全国交流研修大会で中央事務局からの報告にもあつたとおり、EA21の認証登録事業者数は上半期の時点ですべてに昨年度実績を下回りました。制度疲労という言葉が出て来るくらいですから審査人の立場からも危機を感じざるを得ません。来年度第10回となるこの全国交流研修大会は東京での開催が決まりましたが、果たしてどうなることでしょうか。

合わせて環境カウンセラー制度についても怪しい雲行きを感じますが、これも11月に名古屋で開催される第5回ECU環境カウンセラー全国交流会で、EC登録制度検討委員会の委員でもあるECU佐々木理事長から何らかの報告があるものと思われまふ。注目したいところです。

KECAとしては後半の活動期に入っていますが、「事業継続計画（BCP）普及セミナー」（11月7日、フクシア）、「環境教育インストラクター養成セミナー」（11月29、30日、あーすぷらざ）をはじめ、各支部、委員会では計画中の自然観察会、出前授業、環境フェア展示等各種活動が続きます。是非とも事故等のないよう注意して実行すると共に、2014年度として悔いのない活動を全うしていただきたいと思います。



事業者向け環境経営セミナー開催報告

環境教育委員会 三島 通世

平成26年7月19日(土)10:00~16:30、フクシア(横浜市西区社会福祉協議会)にて、申込者29名、KECA会員オブザーバー3名が参加してセミナーを実施した。なお、本セミナーはKECA初開催であることからKECA全体の事業として、環境教育委員会が起案し、環境経営委員会、環境管理委員会、化学物質委員会メンバーの協働により開催したものである。

セミナーでは、「儲かる環境経営を目指したい方々へ」をテーマとして、エコアクション21、ISO14001を有効に活用して、経営体質を改善する環境活動を紹介する内容とした。

□**基調講演**では、TV出演をはじめ、幅広い分野で活躍されている向洋電機土木株式会社横澤昌典様から『成長戦略を行うための人材育成』のタイトルでご講演いただいた。

□**引き続き講義1**では、KECAメンバーによる「経営体質を改善する環境活動」を事例を交えてお話した。

□**昼の休憩時間**には、食事をしながら参加者が持参した会社案内や商品パンフレットで、それぞれの会社を紹介するなどして交流を深めていただいた。

□**午後からのワークショップ**では、午前の講義内容を受け、2つの架空企業の「事業課題の解決をどのように環境活動と繋げるか」を参加者が6グループに分かれて討議し、体験していただいた。

□**講義2**では、環境リスク(=事業リスク)の対策全般論と、その後リレー形式で、BCP、化学物質管理、労働安全衛生、最近の関係する法改正対応、廃棄物法について説明を行った。

最後に、KECAが事業者を対象としてサポートできることや、秋から配信する「KECAメルマガ」について紹介し、参加者には修了証をお渡しした。

セミナー後は、KECA会員による参加者に対する個別相談会を設け、数名の方からの相談に対応した。

参加者に対してアンケートを行った結果、講義2が短い時間でのリレー形式で分かりづらかったなど、運営面のまずさの指摘があったが、全体を通して高評価をいただいた。

また、KECAによるサポート希望を尋ねたところ、表2のような結果が得られた。今回は参加費を無料で実施したが、有料だったらいくらまで出すかを聞いたところ、平均2,200円と回答をいただいた。

【セミナーを終えて】

初めて実施した「事業者向け環境経営セミナー」はKECAの多くの委員会メンバーの協働により開催し、参加者(事業者)から高い評価をいただいた。また参加者のアンケート結果から、企業には環境経営のニーズがあることも確認できた。このニーズに応えるべくKECA専門家によるフォローを行うとともに、今後も形を変えて、企業に貢献できるイベントを企画していきたい。

表1 満足度調査(5点満点)

項目	評価点
(1) 講義1	4.6
(2) ワークショップ	4.4
(3) 講義2	4.1

表2 KECAサポート希望数

項目	件数
事業所化学物質管理	6
製品化学物質管理	6
環境経営のコンサル・指導	6
法令対応指導	2
KECAメルマガ配信希望	15

総合研修会Ⅰの報告

環境教育委員会 委員長 岡本正義

平成26年8月30日(土)9:10~12時まで横浜市西区フクシアで、佐藤元気象予報士を招いて、KECA会員28名が参加して研修会を実施した。テーマは、「気象現象の仕組みと気象実験」とし、1)気象と災害と環境、2)気象現象の形成、3)気象の実況把握と予測について講義のあと、グループワークショップとして天気図の見方、演習を行い、さらに気象実験として「偏西風蛇行実験及び雨降り実験」を行うという盛

りだくさんの内容であった。

今回の研修に当たって、講師から予め会員の知りたい事を集めてくださいとのことで、アンケートを取り会員からの質問を集めた。雲（種類と高さなど）、台風（進路は？など）、異常気象（豪雨、猛暑、竜巻など）、観測（気象衛星など）、予測（データは？エルニーニョは？）など幅広い質問が出され、これらの情報に基づき、講師が話を進めた。また、座学だけでなく体験、実験を交えた講座になるよう KECA からお願いし、実際の天気図を見て、各班毎に天候と風の向きを読み取る体験も行った。風は高気圧、低気圧に向かって吹くのではなく、地球の自転の影響によって等圧線に沿って動くことを学んだ。日本は中緯度帯にあり天気は偏西風の影響を強く受ける。しかし、この偏西風も熱の影響を強く受けて蛇行することを実験で再現した。

気象は日頃身近な現象であり、参加者の問題意識も高く、講座の最後の質問時間では、たくさんの質問が出た。降水確率はどのように判断して行動したら良いか？ 風の進路予測に使うデータは？ 地球温暖化には水蒸気が大きな影響を持っていると思うが、長期予測に影響を与えるエルニーニョの予測は？ 等等。

参加者にアンケートを取った結果は、満足度は5点満点の3.8点、内容の理解度も3.7点であった。天気図の見方・演習と偏西風蛇行実験は、多くの参加者が興味と関心を持ち、研修は好評だった。3時間弱の研修時間だったが時間が足りず、予定した体験と実験ができなかったものもあり、少し残念だった。



講師の佐藤元 気象予報士



偏西風蛇行実験：水流をモデルに行っている

バリアフリーフェア2014の報告

事務局企画担当：杉浦弘祐、原洋夫、福田昭一、河野健三

バリアフリーフェア2014は9月20日（土）にKECAの事務所がある横浜ワールドポーターズのビッグイベントとして開催され、前日の会場設営を含め17名の会員の参加・協力を得て無事終了しました。

フェア出展にあたり、今年からテーマを「KECA会員の環境活動」として、対外的なKECAのPRと会員同志の交流の場を提供する目的として行うこととしました。

今回のフェアではKECAの発足時からの会員である川崎支部の佐久間さんへ「10月8日、皆既月食を見て(高層)大気の汚染を考えよう」のパネル制作をお願いし展示しました。また、長年、地域活動を行ってきた個人会員の発表の場として、参加会員同志の交流・情報交換も行いました。

また、ブース展示としては、

- ①省エネ体験模型「省エネ家族」：人のいない部屋の電気を消して、一家団らんは省エネ？
- ②白熱灯とLED電灯の省エネ比較(100ボルト対応)：手回し発電機で発電量を体験



前日のブース出展準備作業風景

- ③学校給食での牛乳びんの使用状況：神奈川県のみんびんの使用状況は僅か0.7%、99.3%が紙パック
- ④保育園児への「エコ育」で使っている教材：念力で浮き沈みするクラゲの実験、各種水時計
- ⑤廃棄物を活用したヘロンの噴水、ベンナムこま、リングパズル等

また、パフォーマンスエリアでは“KECA 合唱団”が熱演し、好評を博しました。KECAの活動を来場者に理解してもらうのは勿論ですが、“KECA 合唱団”のデビューにより、KECAの活動の幅の広さを知ってもらう良い機会になったと思います。

バリアフリーフェアの様子は、夜9時のNHKテレビのニュースで放映され、翌日の神奈川新聞でも紹介されて知名度も少しずつ上がってきたようです。

協力いただいた
会員のみなさん
(フェアを終えて)



来場者に省エネ体験してもらう



熱唱する“KECA 合唱団”

委員会活動

環境教育委員会

委員長 岡本 正義

1. 総合研修会 I

環境教育委員会で担当し、8月30日(土)午前、横浜市西区フクシアで開催した(2,3ページ参照)。

2. 環境教育委員会

委員会開催日：毎月第4月曜日(原則)18:30～、横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」

3. 神奈川県環境・エネルギー学校派遣事業の委託により若松小学校で出前授業を実施

平成26年7月8日(火)、相模原市立若松小学校で3年生2クラス65名に「すごいモノを生み出す! 生物多様性」をテーマに、池田浩講師と5名の補助者で出前授業を行った。

画像を見て、どこに生き物(虫)がいるか探すことから始め、児童たちは「いた!」「見つけた!」など、うれしそうに虫を見つけていた。

次いで、四季の広場(学校敷地内)で虫探しを行う。講師達が虫を探すポイントを教えて、児童たちは、たくさんの虫を見つけた。

教室に戻り、見つけた虫や生き物をポストイットに書き、「生き物マップ」を作った。マップを見ると生き物が木の上や草むら、土の中や畑と、あらゆる所にいることが一目で分かる。

最後は「生き物と人の暮らしのつながり」について、実物を見ながらみんなで考えた。カワセミやフクロウの体形は新幹線に利用されている。オナモミとマジックテープ、七色に輝くモルフォチョウの羽根などを虫メガネや顕微鏡で観察した。

さまざまな生き物が存在することが、人間の生活にも非常に大切であること、生き物が住んでいる場所・

環境を大切にしようということで授業を終った。

この授業が終ると、すぐに小学校のブログで紹介された。また、児童からお礼の手紙が届いた。大変好評であったと思う。



若松小学校のブログに掲載された写真から

4. 神奈川県からの依頼により消費者教育教員研修で環境講座を実施

8月19日(火) 10:30~12:00、かながわ県民センター2階ホールで、県内の小・中・高等学校の教員と金融広報委員会のメンバー26名を対象に、「楽しく学ぶ！環境教育～ごみと3R～」というテーマで岡本正義講師と3名の支援者で講座を行った。

最初に環境授業の基本を知るということで、環境問題の特徴、授業目標は？プログラムを組み立てて実施する場合に考慮することなどを紹介した後、「ごみと3R」の模擬授業を行った。

「3R：リサイクル、リユース、リデュース」の寸劇を見ながら、どういうことかを理解する。例えば、牛乳パックはリサイクルされると何になるか？を考える場合、品物を良く見ると解答が書いてあることに気付く。観察することの大事さを子供に分かってもらうことである。

リサイクル実験として、ペットボトルの比重分離実験を各班毎にやった。蓋、ラベル、本体のプラスチックが異なるので比重の違いで分離できる。リデュース体験として、風呂敷包み体験をした。バナナ包み、びん包み、風呂敷リュックなどを実際に全員が行った。更に三角巾や防災頭巾などの使い方も紹介した。

3つの品物を3Rに分けてみる「3R体験」を行った。この体験は、見方を変えると同じ品物が、リサイクルにもリデュースにもなることを理解することである。発泡スチロールのリモネンによる溶解・回収実験も行った。小・中・高校生を対象にした、実験・体験を取り入れたが、盛りだくさんであり、時間は10分ほどオーバーしてしまった(反省！)

参加者のアンケートでは、分かりやすかったと総合評価85点と言う高い評価を頂いた。



4~5人で班を作り6班で進めた



プラの比重分離実験



風呂敷包み体験、意外と人気

5. 環境教育インストラクター養成セミナー・フォローアップ研修会を実施

10月11日(土)、横浜市西区フクシアで掲題の研修会を実施した。この研修会、セミナー受講者へのアフターフォローとして、受講者が抱えている課題に対してのアドバイス、あるいは新たなセミナーのヒントを提供するなどを目的に実施するものである。今回は過去の3回の受講者に通知し、6名が参加した。

講義は、野外ではなく室内でもできる自然観察のヒントとして、環境教育委員会メンバーで森林インストラクター田中真次講師(植物)と池田浩講師(動物(昆虫))の2つの講座を提供した後、受講者と環境教育委員

会メンバーで茶菓をいただきながら、情報交換、意見交換、交流・懇親を行った。

「植物」の講座（田中講師）では、会場から一歩外へ出て、街路樹の「イチョウ」「クスノキ」「アカメガシワ」について大河ドラマや歴史に関連付けて話をした。また、植物の生き延びるための知恵を通して、それぞれの形態を説明した。身近な植物でも様々な観点から話をすることによって話を膨らませることができることを学ぶことができた。

「動物（昆虫）」の講座（池田講師）では、最初に写真から擬態した昆虫をみつけることによって、アイスブレイクをした。その後、動物当てゲームや生態系と動物の係わりについて学べるゲームを行った。子供たちを対象にした場合なども盛り込まれ、実践する際に役に立つ室内でもできる自然教育の手本として学ぶことができた。受講者からは、講師のレベルの高さが伝わったなど、満足の声が上がっている。

交流会では、少人数だったこともあり一人の発言に対し、全員で話し合うことができた。それぞれの話を聞くことで、お互いに刺激になった交流会であった。



街路樹で植物のはなし（田中講師）



生き物に適した環境のはなし（池田講師）

6. 環境教育委員会メンバーが各地域で活発な出前講座・授業を実施

- (1) 横須賀地区では、小学校4年生の平作川の上流体験学習、保育園の年少中長組（3～5歳児）を対象とした水の「エコ育」や、市民、環境団体対象に事例発表を行った。また地球温暖化対策地域協議会として、産業交流プラザで秋の子ども環境体験学習「ソーラーランタンをつくろう」などを実施した。
- (2) 川崎地区では、多摩区や宮前区で「温暖化スゴロク」の出前授業を、市の地球温暖化防止推進員と共に実施した。

化学物質委員会

委員長 石井 員良

～化学物質に対するアンケート調査結果概要～

化学物質に関する正確な情報を発信することは、化学物質委員会の重要な事業であります。しかし、化学物質は多種多様であり、発信した情報が KECA 会員のみなさんの関心を引かなければ、情報発信の意義がなくなることになります。

そこで、KECA 会員のみなさんがどのような化学物質に関心を持っているか、アンケート調査を実施しました。（平成 26 年 7 月 14 日～31 日、回答率：24.8%、31 名/125 名）

アンケート調査結果の概要は、KECA の HP（ブログ）を参照して下さい。

(1) この調査結果から、化学物質に対する KECA 会員の人間像が見えてきました。

- ◆化学物質に対し関心を持っていて、化学物質の性質は、利便性と危険性の二面性があると感じながら、便利であるが不安もある化学物質を使用している。
- ◆化学物質に対する不安は、化学物質について知らないというよりは、化学物質について知っているが、化学物質について知っているからこそ、化学物質を取り扱う、化学物質を管理している事業者や行政について不信感を持っている。

- ◆また、製品を買う時は、信頼しているメーカー等を選んで買う、あるいは表示をみてより安全と思う製品を買い、表示をみて使い方を確認して使用する。
 - (2) また、環境カウンセラーとして活動する時に、常日頃、気になっている化学物質に関する語句について聞きました。もっとも気になっている語句は
 - ◆「環境に排出する化学物質を規制する法律」、「PCB」であり、続いて、「化学物質管理」、「SDS」、「PM2.5」で、過去の「事件」は、あまり気にならないようでした。
 - ◆突出して気になる語句がなく、調査した語句、すべてについて気になる語句のようでした。ちなみに、その他も含めて全 23 語句の方が 1 名、ゼロ（化学物質の関心がないと回答）の方が 1 名で、回答者 1 人あたりの気になる語句の数は、平均して約 9 個でした。その他は、脱法ハーブ（薬物問題）が 1 項目ありました。
 - (3) 次に、選択する語句を 3 つに絞って再度回答してもらいました。
 - 気になる語句を 3 項目に絞った場合、「PM2.5」が最も多く、「化学物質管理」、「PCB」が続いています。
 - ◆先に語句を分類した中では、化学物質（有害性が大きい）と化学物質管理に関する事項が気になっていることが分かりました。
 - ◆また、化学物質に関係する法律では、REACH 規則、RoHS 指令が上位でした。
- アンケート回答者 31 名のうち、20 名の方からご意見を記述していただきました。また、化学物質委員会の活動について（含む、これからの活動方針について）、アンケートの内容について等、貴重なご意見を記述いただき有難うございました。

支部活動

横浜支部

牛乳びんリユース活動グループ

～環境省 牛乳びん導入支援モデル事業を開始しました～

横浜支部・牛乳びんリユース活動グループは、環境省の「平成 26 年度学校給食用牛乳びんの導入支援に向けたモデル事業」に応募し、9 月 26 日に選考されたとの連絡がありました。

循環型社会の実現を目指している当協議会では 3 R（リデュース、リユース、リサイクル）のうち、リサイクルを除いたリデュース、リユースは、まだ緒についたばかりであり、びんの利用が 3 R すべてを網羅すると考えられることから、びん牛乳の導入は 3 R の啓発活動になると考え活動してきました。

当グループでは、神奈川県でのびん牛乳の採用が山北町、大井町に限られ、県全体のわずか 0.7% にすぎないことに注目し、神奈川県全域へのびん牛乳の導入普及を目指し応募いたしました。

機を同じくして、川崎市が平成 28 年度から中学校の完全給食を目指す計画に対してパブリックコメントの募集が行われていたので、9 月 29 日に「紙パック牛乳からびん牛乳への変更」を提案いたしました。

本モデル事業の実施期間は 10 月から 2 月 20 日までで、3 月には成果発表会が行われる予定です。横浜支部で活動を開始しましたが、他支部の協力を得ながら進めていくのでご協力の程よろしく申し上げます。

[牛乳びんリユース活動グループ：長安、林、河野（記）]



横須賀三浦支部

支部長（代） 高橋 弘二

1. 環境カウンセラー養成支援講座の開催

7月20日（日）10時15分～14時20分、湘南国際村センター206号室で、「三浦半島自然ふれあい楽校サマースクール2014」の一環でKECA横須賀三浦支部／環境教育委員会が担当し実施した。受講者は三浦半島で環境活動を行っているベテランの人たちで、市民部門の環境カウンセラー登録申請を支援するものである。今回は受講者7名（うち1名はハードルが高いと前日取消）、講師はKECA会員3名と地元環境カウンセラー1名で実施した。

午前中は、環境カウンセラー全般、KECAの話と登録申請について解説し、午後からは事前に用意してもらった小論文の内容、書き方についてマンツーマン／講師交替して懇切丁寧に議論・指導した。小論文については申請するまで、Eメールで指導を行った。全員の合格を願っています。



受講者の質問に答える

2. 地域での環境教育活動

- (1) 市立小学校3、4年生出前授業：①「身近な水・川」についての話、水質検査(パックテスト)の実習、②近くを流れる川の上流での体験学習、③学校ビオトープでの観察など、延べ11回（クラス）実施
- (2) 市立保育園（3～5歳児）での「エコ育」：①「大切な水・水の変身」のはなし、②「サンタンの水のぼうけん」絵本の読み聞かせ、③水を使った実験、遊びなど、4保育園で実施

県央支部

支部長 高山 進

支部活動として隔月定例会の実施、自然観察会、地域企業の見学会、及び自治体との積極的なコミュニケーションを図りながら支援活動を行っています。

活動事例として、海老名市との連携で実施した「海老名市サマースクール」の授業を紹介します。今年で4年目を迎え、小学校3年生から5年生を対象に行っています。数あるサマースクールの中でも人気があり延べ人数で約80人が参加されました。

【海老名市サマースクール】 テーマ『電気コソコソ作戦』

・実施日：7月25日（東柏ヶ谷小学校）、28日（海老名小学校）
 <授業の狙い>

節電の知識を話して教えるのではなく、子どもたちが行動して体感して、自分達で節電することの必要性に気づいてもらえるような授業

<授業内容>

1. グループ討議「電気がないと使えなくなるものを、グループ討議で整理する。

演習（1）「電気をどのくらい使うのか測ってみよう！」

- ①テレビ ②電灯セット ③ドライヤー ④扇風機

演習（2）「冷蔵庫 からの取り出しゲーム」

冷蔵庫で冷やす必要のないものを間違いなく取り出すことを採点するゲームで、詰め過ぎないことを学んでもらう。

2. グループ討議 「電気コソコソ作戦をつくろう！」

節電できることを、ポストイットに書きだし、グループでまとめる。



演習（1） 電気使用量の測定

3. グループ発表 各グループから自慢の作戦の報告及び授業の感想報告

4. グループ表彰

＜子供たちの主な節電宣言＞

- 「エアコン」は設定温度を守り、部屋のドアを閉めて使う。
- 冷蔵庫はものを入れたり、取り出したらすぐ扉を閉めるようにする。
- 地球温暖化防止のためムダな電気を消す。
- テレビは多くの電気を使うので、見る時間を少なくする。
- 電動より手動のものを使う。

「節電をテーマに“電気コソコソ作戦”と題して行った、グループ討議や実験を中心とした内容は、子供たちにとって、とても興味深い体験となり、節電への更なる意識付けができました」とと海老名市より好評を得ました。

今後も県央支部の活動の柱として授業内容のレベルアップを図り、来年度以降も継続して実施していきたいと考えています。



演習② 冷蔵庫から取り出しゲーム

＝西湘支部＝

～環境教育活動について～

支部会員 加藤 忠男

西湘支部では、10月18日に東海大学で教養学部人間環境学科の学生の皆さんを対象に環境教育を実施しました。この教育は、一昨年、昨年に引き続いて3年目の実施となりました。受講生は14名（うち女性が4名）で1回生が中心でした。

当日は、講義2件

1. 地球環境問題と企業の取組：講師 加藤 忠男
2. フィリピン・ボホール島への出稼ぎ旅行記：講師 厚見 安宏

講義の後、西湘支部のメンバー6名が参加してグループ討議を行いました。

学生の皆さんは、企業の環境への取組に触れ、環境の勉強の重要性を再認識した様です。また、フィリピンでの排水の水質分析の話では、途上国支援の重要性を認識したようです。

グループ討議では、具体的な企業の環境への取組や、フィリピンの現地事情など、質問が積極的に行われ、われわれ西湘支部メンバーも楽しく討議に参加することができました。

学生の皆さんは、環境に対して高い意識を持っているようで、環境カウンセラー資格やエコ検定にも興味を持っていて、多くの質問がありました。今後彼らの取組に期待したいと思います。

今回の講義・グループ討議を通して学生の皆さんが非常に意欲的であり、想像していた以上に環境活動に積極的であると感じ、我々西湘支部メンバーも環境に取組む者として、頼もしく且つ心強く感じました。次回以降もこの様な機会を得て、将来環境を担う若さあふれる皆さんと懇談できることを期待しています。



＝湘南支部＝

～県立茅ヶ崎里山公園柳谷と彼岸花の咲く小出川の散策～

支部長 西村 堅一郎

KECA 湘南支部としての初めての自然観察会が9月21日（日）10時～14時に開催された。前日までの雨模様の天候から一転して素晴らしい秋晴れに恵まれ、楽しい観察会となった。県立茅ヶ崎里山公園の見学は、茅ヶ崎市の環境市民活動団体「柳谷の自然に学ぶ会」（代表：野田晴美氏）の皆様のご協力の下で行われた。「柳谷の自然に学ぶ会」の野田、加賀、斎藤、白田、祖一様には、現地を丁寧に案内していただいた。

KECA からの参加者は、湘南支部6名（安斎、中本、小山、嶋田、西村、吉池）のほか、横浜支部2名（大野、木村）、西湘支部1名（小林）の計9名であった。

県立茅ヶ崎里山公園パークセンターに集合し、里山公園の「柳谷の自然に学ぶ会」の作成した地図を基に見学コースの説明を受けた後、現地の散策・見学に出発した。散策は途中、草木、昆虫、地質、民俗、昔の生活などの説明を受けながら、平成の森から雑木林を抜け、里の丘に到着した。

里の丘は自然に人手を加え、より多くの生物が生息するようになったところである。里の丘には、ウワミズザクラ、イヌザクラ、オオシマザクラ、ギブシなどが植えられており、ウワミズザクラやイヌザクラはほかのサクラと異なり、花の形や花と葉のつき方に特徴がある。

その後、みこし道と道祖神を通り、谷戸底に降りて、芹沢の池と谷の家に至った。谷の家はこのあたりの農家の造りや田の字の家を模して造られたもので、一部古民家の古材も使用されている。この日は「昔話を聞く会」が開催されており、家の中ではたくさんの親子連れが紙芝居の絵を見ながら熱心に聞き入っていた。

西尾根の裾を芹沢の池に沿って下ると、東尾根の間に湿地帯があり、ヨシ、ガマなどが繁茂していた。また、一部はボランティアによって田んぼが作られ、多くの生物の生息場所となっていた。西尾根の裾にある昔の火山活動によってできた堆積地層が見られる場所をとおり、腰掛神社に至った。

里の家で弁当を食べながら、1時間ほど意見交換を行い、「柳谷の自然に学ぶ会」の皆様とお別れし、彼岸花の咲く小出川沿いを散策した。満開の彼岸花にカメラを向けて写真を撮っているたくさんの人々と出会いながら、のどかな一時を過ごすことができた。

慶応大学湘南キャンパスからバスに乗ったが、万歩計は1万歩を越えていた。



里の家での記念写真



彼岸花の咲く小出川

三浦半島の自然環境はいま

高橋 弘二 (横須賀三浦支部)

1. 小網代の森がオープン

7月20日、小網代の森(三浦市)が神奈川県による整備を終えて、黒岩知事も出席してオープンしました。

小網代の森の特徴は首都圏の近くにあつて、約1.5kmの浦の川の流域に人家・工場がない森で、干潟・湿地が残りアカテガニの産卵地として知られています。過去には鉄道を通しゴルフ場開発が計画されたところを、市民団体による10数年の保全・利活用の実践を通じて開発計画を中止させて、流域全体の保全に結びつけたものです。

お天気の回復した飛び石連休の中・9月22日、三浦市役所を訪ねるついでに「小網代の森」「油壺・荒井浜」を歩いてきました。引橋バス停で下車し、上流側から森に入ってビックリ、広い木製の階段が続き、傾斜がなくなつたところも幅2mほどの木道が続いています。木道の両側約2mがきれいに除草されていました。荷物を手に下げ革靴を履いた老夫婦が歩いており、安心して歩ける公園として生まれ変わりました。かつての篠竹のトンネルの面影はなく、長靴で悪戦苦闘して一步一步歩いた泥道が懐かしく思い出されます。

木道というと尾瀬の湿原が思い出されますが、尾瀬の木道は幅40cmほど、間を開けて2列に並べて木道の下にも日が差し込み、草花が生育し生き物が暮らせる配慮がされています。また除草も木道を歩くのに邪魔にならない程度にして、草花や昆虫などを間近に見て触れ、匂いを嗅げるようにするのが環境学習・体験の場としてふさわしいのだが・・・、と思いながら森を後にしました。

2. 復元田んぼで環境教育

横須賀市(担当自然環境共生課)では市民が気軽に自然に親しむことができるように、市民協働で「里山的環境づくり」に取り組んでいます。横須賀の西地区長坂にある沢山池の上流側(谷戸)は30年ほど前まで稲作が行われていましたが、その後放置されて藪・雑木林になっていました。一昨年から市民協働の里山実行委員会が中心となって雑木・藪の伐採・伐根・整地して田んぼを復元、昨年秋には収穫したモチ米・うるち米で収穫祭(餅つき、新米ご飯の試食など)を行いました。今年は、近くの小学校の授業や市内の親子(公募)に田植え、稲刈りを体験してもらい、11月には収穫祭を予定しています。なお、沢山池は灌漑用の溜め池で、その後、ヘラブナ釣りの池として人気があつたのですが、堰堤が老朽化して危険ということで所有者により水が抜かれた結果、約10年たった今は水みちを残して草地、ヤナギが育ち陸地化しつつあります。



整備され過ぎた？小網代の森



満々と水を湛えたヘラブナ釣りの池も、水が抜かれて約10年ですっかり陸地化した



復元した田んぼで、小学生が稲刈り体験

太陽エネルギーだけで生きた江戸時代、照明は去年の太陽だった

原 千秋 (県央支部)

日本で初めての電力会社、東京電灯（東京電力の前身）が、商業的に発電所からの送電を始めたのは明治20年だった。と言っても、日本橋近辺の銀行や大商店だけだった。それ以前の夜間照明は、何かを燃やして、その明かりを利用するほかなかった。明治時代に入ってから石油ランプが普及したが、さらにその前の江戸時代は、国内でできる油や蠟だけを行灯（あんどん）や蠟燭の形で燃やしていた。行灯は、もともと提灯のように手に下げて持って歩くための移動用照明器具だったらしい。字を見ても〈行く灯〉だからそうだったのだろう。これがいつの間にか据え置き用に変化して、照明器具の主流になった。

照明用の油としては、ゴマ、エゴマ、ツバキなどの実を絞って使っていたが、のちにナタネ油や、綿の実からとるようになった。商工業中心の大阪方面では食用になるような上等の植物油だったが、夜に明かりを灯すことは贅沢なことなので、地方では使えそうな油は何でも使った。鯨のとれる土地では鯨油を、関東の銚子沖でイワシが豊富に取ればイワシ油を使うなど、それぞれの土地によって、安く手に入れやすい油を使っていた。

ナタネにせよ、イワシにせよ、個体から液体である油を搾り出すためにはいろいろな方法があったようだが、絞り切った油粕はチツソ分を含んでいるため、良質の肥料となった。チツソ分を植物に吸収された残りの部分は、腐って土の一部となり完全にリサイクルされている。殿様や金持ちは、もっと明るい照明の蠟燭を使ったが、かなり高価で本当の贅沢品だった。広間などで使う大きな百匁の蠟燭は一本200文ぐらいした。当時の典型的な中流階級である大工の日当が500文の時代だから、照明用の消耗品としてはとても高いものである。行灯だろうが蠟燭だろうが、昔の照明は、要するに植物が油や蠟の形で貯めておいたごく近年の太陽エネルギーにほかならない。それを人間が搾り取り、油の燃焼という形で利用していた。燃やしてできる二酸化炭素は、どこかの植物に取り込まれる。

一年間に燃やす量と、できる量は同じだから全体からいけば何も増えず、なにも減らない。

自然観察 ゲンノショウコ

ゲンノショウコは古くから「医者いらず」と呼ばれる下痢止めに有効な多年草です。日本の民間薬の代表格であり、江戸時代から用いられています。

ゲンノショウコを服用すると下痢の症状がたちまち治ることから「現之証拠（ゲンノショウコ）」という名がついたといわれています。紅紫花は西日本に、白紫花は東日本に多く見られるといわれていますが、この近辺では両方が混在しています。

フウロソウ科ですので、園芸店で見かけるフロソウと同じに見えます。秋に種子を飛散させた後の形がおみこしの屋根についているめくりあがった形の飾りに見えることから、「神輿草（みこしぐさ）」の別名があります。



会員投稿(3)

天変地異

川崎支部 佐久間 精一

事の起こりは河野事務局長からの電話だった。KECA 事務所が入居している横浜ワールドポーターズが主催して9月20日(土)に開催する「バリアフリーフェア」で、KECAのブースに出展するもののアイデア募集の相談であった。思いついたのは、皆既月食中の月面は高層大気の汚染を反映し、例えば火山の大噴火の後ではほとんど真黒で見えなくなることである。10月8日の皆既月食は、起きる時刻も20時前後と観望に都合がよい。また今回は中国の上空に黄砂やPM2.5が滞留していれば、その影響をもっとも受けやすい太陽・地球・月の位置関係であった。

天文雑誌や前回の月食(2011年12月10~11日)での自前の写真を編集して展示パネルの原案を作り提案したところ採用された。フェアの当日は高橋副理事長がA1サイズに拡大コピーしてくれたパネル「10月8日の月食を見て(高層)大気の汚染を考えよう」に来場者の何人かは足を止めて見ていってくれた。

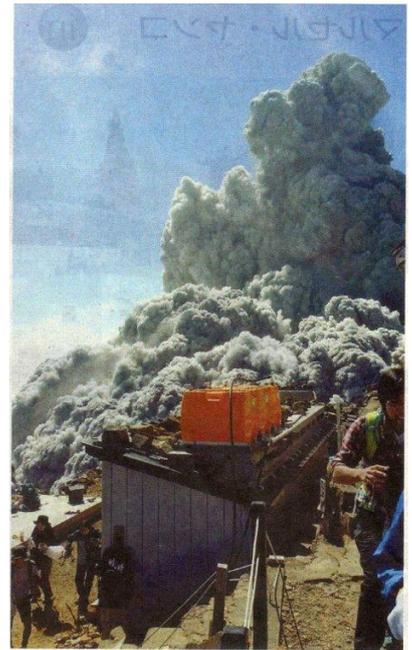
さて、このフェスティバル前後に種々の災害が発生した。異常降雨による土石流、御嶽山の噴火、最強の台風、被害こそ少なかったが震度4クラスの地震の頻発などである。

そこで今はあまり使われなくなった四字熟語「天変地異」が頭に浮かんだ。古代人にとっては月食も「天変」であったろう。噴火や地震はまさしく「地異」である。異常降雨や強烈な台風は、地球温暖化に原因があるとされる。

9月23日に開かれた国連気候変動首脳会合(気候変動サミット)では、米中の二大エネルギー(浪費)大国が温室効果ガス削減に前向きな姿勢を示した。方針転換したのはオイルシェール開発の進展のためという。真にご都合主義極まりないと筆者には感じられる。これに反して日本の対応はエネルギー政策が定まらないので全く精彩を欠いていた。環境カウンセラーとしては真の「天変地異」と人災とを峻別して行動する必要があるだろう。

10月8日の月食当夜は筆者の自宅を含めて神奈川県では全く月を見られなかった様である。テレビの画像を見る限り皆既中の月面の明るさは通常通りであった。御嶽山の噴煙は上空に届かず影響はなかった。

次回の皆既月食は、来年4月4日に見られるが、中国の西部の上空の粉塵が問題になる天体の位置関係になる。中国からの黄砂・PM2.5の影響が考えられるため、今回より暗い月面になるかどうか興味を持って待っている。



読売新聞(夕)2014.10.31
読者のニュース写真入選作1席
二星野智文(愛知県幸田町)

10月8日皆既月食を見て(高層)大気の汚染を考えよう

●赤銅色に見えるわけ
地球大気を通りぬけた光がどのように屈折して地球の影の中に入りこむかをオーバーに表現して示してあります。本影の中心部や周辺で微妙な色の違いがあることにも注目してカラースケッチするのもおすすめです。

●ダンジョンのスケール
皆既中の月面の明るさは月食ごとに違いがあります。フランスの天文学者A・タンジョンが設定した。この表のような尺度で見つり勘定してみても興味深いといえます。中間くらいの場合はL=3.5などとしておきましょう。

0 非常に暗くほとんど見えなし。ときに影の中心ではほとんど見えない。
1 暗い月食で、灰色が濃色になり、影の輪郭は鮮明にない。
2 月面は暗く暗い。暗い環状帯が広がっている。しばしば影の中心に環状帯ともなうこともあり、外縁は暗くない。
3 レンガ色の暗い月食。影は完全に暗い環状帯または灰色で月の縁が輪どられる。
4 銅色またはオレンジ色に赤っぽく、非常に暗い月の外縁はたいへん明るく青味がかったりする。

欠け始めは18時15分から
皆既の継続時間は約1時間
月食の終わりは21時35分

皆既月食の最大の見どころと魅力はなんといっても赤銅色に変身する満月。なぜあんなに赤みをおびて見える

(天文ガイド10月号参照)

【第5回 ECU 全国交流会（2014.11.12） 事例発表要旨】

NPO かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）と
環境カウンセラーとしての環境教育活動

NPO かながわ環境カウンセラー協議会 高橋 弘二

1. NPO かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）の活動

KECA の設立は 1998 年 3 月、翌 1999 年 11 月に NPO 法人に登録。設立 5 年目の 2003 年に組織体制の強化再構築が行われ、下記の組織で会の設立趣旨に則った活動を行っている。（現会員 128 名）

(1) 委員会・研究会活動（専門分野の活動）

①環境管理委員会 ②環境経営委員会 ③環境教育委員会 ④化学物質委員会 ⑤エネルギー研究会

(2) 支部活動（地域に密着した活動）

①川崎 ②横浜 ③横須賀三浦 ④湘南 ⑤相模原 ⑥県央 ⑦西湘支部 （計 7 支部）

2. KECA 環境教育委員会の活動

設立当時から会員を対象とする研修会、自然観察会などを開催してきたが、2003 年に環境教育委員会が設置され、以後、会員、会員外に対する次のような環境教育活動を行っている。

(1) 会員を対象にした活動

①総合研修会 I：環境教育学習・研修、講演会
②自然観察会・考察会：県内の自然探索・ウォッチング

(2) 会員外（環境教育志向者）対象の活動

①環境カウンセラー養成講座（7 月）
②環境教育インストラクター養成セミナー（11 月）
③ 同 フォローアップセミナー（10 月）

(3) 会員外（事業者）

①環境管理コンサルタント（EA21）
②環境経営セミナー（BCP ほか）

(4) 会員外（一般市民、団体）

①市民環境活動報告会（3 月）：実行委員会、発表
②市民活動フェア（3 月）：KECA 出展に協力
③バリアフリーフェア（9 月）：KECA 出展に協力

(5) 小中学校、団体、自治会・町内会等の出前授業

①神奈川県 環境・エネルギー学校派遣事業
②環境教育出前授業（KECA 独自、HP で広報）

3. 各支部における環境教育活動

支部により所属会員数や諸条件によって活動に温度差があるが、次のような活動が行われている。

- (1) 各自治体の環境フェアなどに参加出展、啓発・普及活動
- (2) 小中学校への環境教育出前授業（環境教育委員会の出前授業サポートを含む）
- (3) 自然観察会・リバーウォッチング・エコガイドツアー

4. 環境カウンセラーとしての環境教育活動（支部活動）

所属する横須賀三浦支部は会員数が 5 名と少ないため、支部としての活動というよりは、主に環境カウンセラーとして地元横須賀市で活動している。活動の基本は、活動を続けて 26 年目となる横須賀「水と環境」研究会で培った経験・知見を活かして地域の環境保全・調査・環境教育・啓発活動を行っている。

また、より充実した内容の提供と活動の環を広げるために、地域の多くの仲間と協働し活動している。

「個人（環境カウンセラー）」＜「団体・グループ」＜「ネットワーク・連絡会など」 [詳細略]



市民環境活動報告会の分科会



保育園における「水の実験」

事務局だより

～来年度(2015年)の通常総会は新生KECAの出発点にしたいと思います～

事務局長 河野健三

1. 今年度の通常総会で定款の変更ができなかった理由と来年度の総会(5月16日)への対応

今年の5月17日に開催した通常総会で、第5号議案「定款変更」を提案し承認されましたが、9月1日に「事務局からのお知らせ」で連絡したように保留となりました。それは定款に含まれる[事業]について議案書で提案するためには、当年度の事業計画書、活動予算書に加え、次年度(2015年度)の事業計画書、活動予算書を揃えた2年分が必要であると横浜市担当部署から指摘を受け、受理されなかったためです。

これは今までの議案書が当該年度のみ提案となっており、[事業]に関する定款変更には更に翌年分の提案が必要との認識がなかったためですが、事務局長としては大変申し訳なく思っております(2007年度の定款変更が登記されていなかったのは同じ理由によると考えられます)。

来年度の総会では定款変更を行うために、KECAとしては初めて2年分(2015年度及び2016年度)の事業計画書、活動予算書を作成し提案することになりますので、現在、鋭意活動して頂いている健全財政検討会の諮問案答申を受けて、理事会での検討を踏まえながら議案書の作成を進めることとなります。

2. KECAの財政基盤をつくってくれたEA21事業収入と審査人部会運営費について

巻頭言で木村理事長が述べている通り、今年度は中期計画の初年度として、健全財政検討会へKECAの収支バランスを2016年度の単年度収支0(ゼロ)を目標として諮問案の提言をお願いしています。来年度の定款変更に合わせてボランティア組織であるKECAとして特定非営利活動促進法(NPO法)を踏まえた十分な議論が改めて必要であると考えておりますのでご協力の程よろしくお願い致します。

【経緯参考】KECAの収支バランスがくずれてきたのは、主に収益事業の中心であったEA21コンサル事業収入の減少によるもので、もう1つは2008年から2012年まで続いていた審査人の皆様の拠出による審査人部会運営費の廃止がある。現在、関係委員会によるBCPをはじめとする新規事業が生まれつつあるが、事業として定着するにはある程度の時間が必要である。

審査人部会運営費については約2年前から定款との関連性について様々な議論がされて上記の結果に至っており、健全財政の維持には審査人の方々のご理解とご支援が不可欠と考える。(河野健三)

【新入会員紹介】

日吉栄一(横浜支部 事業者部門)

□専門分野:生物多様性、食品リサイクル、環境教育

□抱負:食品会社に勤務していることから、食料資源と食品のリサイクルに関する情報発信を行っております。また、海洋環境も悪化している現在、水産物の持続的利用に関するエコマークなどに関しNGOの方々との連携も進めています。

食資源と食べ物の「もったいない」について未来ある子供たちに広く伝えていきたいと考えています。

□第5回 ECU 環境カウンセラー全国交流会

- ・月日:2014年11月12日(水)
- ・<午後の部>(要参加予約)
- ・会場:TKPガーデンシティ名古屋11階
ビルゴ<アパホテル名古屋錦 EXCELLNT 内>
名古屋市中区錦3-15-30 (Tel 052-955-6136)
- ・13:30受付/14:00~16:00交流会
- ・開会挨拶:愛知環境カウンセラー協会会長 鬼頭正克氏
- ・来賓挨拶:環境省中部地方環境事務所
(公財)日本環境協会
- ・基調講演:環境カウンセラー全国連合会理事長
- ・活動事例発表:4件
KECAから高橋弘二副理事長が発表
- ・閉会挨拶(16:00)

予 告

環境教育インストラクター養成セミナー 担当：環境教育委員会

- 日時：11月29日(土) 10:00～17:00
30日(日) 10:00～16:00
- 会場：あーすぷらざ(神奈川県立地球市民かながわプラザ) 会議室
(JR 根岸線本郷台駅西口改札口出てすぐ左)
- 総論1：「環境行政の動向と環境教育」・・・環境省関東地方環境事務所環境対策課平野課長
総論2、各論1、2、環境教育実践事例報告・・・KECA 環境教育委員会
実習：環境教育ワークショップ、模擬授業・・・ //
- 受講者には修了証が授与され、ECUに登録申請することにより「ECU 環境教育インストラクター」として認定されます。
- 受講料 7,000 円(現在受付中)、申込・問合せは、KECA 事務局まで

ちょっと早いですが、準備を……。

□第21回市民環境活動報告会

- ・ 期日：2015年3月1日(日)
- ・ 会場：かながわ県民センター2階大ホール
- ・ 口頭発表：KECA から1件・・・希望者
- ・ 分科会：各分科会での発表・・・希望者

※KECA では環境教育委員会が担当、
実行委員会に川村(副実行委員長)、三島、大竹、
片野、斎藤(明)氏が参加

□市民活動フェア

- ・ 期日：2015年3月7日(土)、8日(日)
- ・ 会場：かながわ県民センター
- ・ KECA ブースにて出展予定
- ・ KECA 全体の活動の他、支部活動、地域活動をしている会員の活動報告展示を募集する予定です。よろしくお願ひします。

※担当：事務局企画担当

編集後記

◇「KECA ニュース」はニュースといいながら年3回の発行のため、新鮮さに欠ける活動報告でも掲載することになります。そこで今年から会員には「事務局からのお知らせ」としてメール配信を始め、一般向けにはホームページで公開するようにしています。◇このたび事業者・会員向けに「KECA 環境経営情報メールマガジン」の配信を始めました。定期的、継続的な配信を期待したいと思います。◇みなさんから寄せられた原稿を編集したところ奇数ページになりました。印刷送付するには偶数ページでないといけないので、今月名古屋で「ESD ユネスコ世界会議」に合わせて開催される ECU 全国交流会で事例発表を行いますので、その要約を掲載しました。(高橋弘二)
※ SD : Sustainable Development”

高橋弘二氏(副理事長、横三支部)

緑綬褒章受章、おめでとうございます。

長年 KECA はじめ、地元横須賀・三浦半島で環境保全・環境教育活動を続けてこられた功績が認められ、このたび社会貢献者に贈られる緑綬褒章を受章されました。

[発行] 特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

理事長：木村信幸/事務局長(広報担当)：河野健三

□ 住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPOスクエア内

□ 電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

□ E-メール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

□ URL：<http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

[年会費等振込先]

ゆうちょ銀行 口座番号 00260-9-24711